古石ひでさと4期目に向かっての議会活動

ひでさと
古石
後援会だより
URL：http://古石.com/

第　3491号
発行令和3年1月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南1条1丁目
TEL　26－2226

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

近づく衆院選　波乱含み

第3種郵便物認可

近づく衆院選　波乱含み

次期衆院選は、衆院議員の任期が満了する10月21日までに行われる。菅政権にとって初の大型国政選挙となり、その是非に審判が下る。任期満了近くの選挙は近年、勝敗が大きく揺れ動いている。新型コロナウイルスの収束の行方が見えない中、与野党ともに厳しい戦いを迫られそうだ。

10月任期満了

自民党は安倍晋三前首相が率いた過去3回の衆院選で大勝した。獲得議席は2012年が294、14年が291、17年が284で、いずれも全ての常任委員長を独占し、各委員会の委員の過半数を確保する「絶対安定多数」に達し、公明党と合わせた与党で3分の2を超えた。安倍政権下の自民党は13、16、19年の参院選でも勝利。安全保障法制や特定秘密保護法など国論を二分する政策を強行しながら、国政選挙で6連勝という類いまれな勝負強さが、歴代最長政権の基礎となった。

だが、菅政権が後に続けるかは不透明だ。00年以降、任期が1年を切る中で行われた衆院選は、与党の苦戦が目立つ。00年の森喜朗政権、03年の小泉純一郎政権はいずれも改選前勢力を割り、野党が躍進。麻生太郎政権の09年選挙では結党以来最少の119議席の歴史的惨敗を喫し、政権交代を許した。民主党の野田佳彦政権も現職閣僚8人が落選するなど大敗し、政権を失った。自民党内に「追い込まれ解散」への危機感は強い。

自公　内部に対立の火種も

そもそも政権発足当初は「秋田の農家出身」「パンケーキ好き」などのイメージ戦略も奏功して好調だった内閣支持率は下落が続く。新型コロナ感染の再拡大や安倍氏の「桜を見る会」前夜の夕食会での補塡問題などがボディーブローのように効いている。

足元にも不安がある。公職選挙法違反罪に問われた元法相の河井克行被告（自民党を離党）の地元の広島3区では、公明党が斉藤鉄夫副代表を新たに擁立。自民党本部は連立を重視し支援する方向だが、県連は候補擁立を模索しており、両党の選挙協力の火種になる可能性がある。

自民党内でも道7区や新潟2区、高知2区など10近くの選挙区で候補が競合している。二階俊博幹事長率いる二階派の勢力拡大方針がきっかけになっている例が目立つ。二階氏は首相と気脈を通じ、政権樹立の立役者でもあるだけに、官邸関係者は「首相は難しい判断を迫られる」と予言する。

携帯電話料金の値下げなど個別政策をアピールする首相だが、任期満了間近の選挙を勝ち抜くには、世論の離反とともに与党内の対立を抑えられるかがカギを握る。（藤本卓郎）

立憲合流　野党共闘に課題

旧立憲民主党と旧国民民主党の合流で昨年9月に誕生した新たな立憲民主党は、有権者に政権の受け皿として認められるのか。枝野幸男代表は首相候補として受け入れられるのか、真価が問われる。

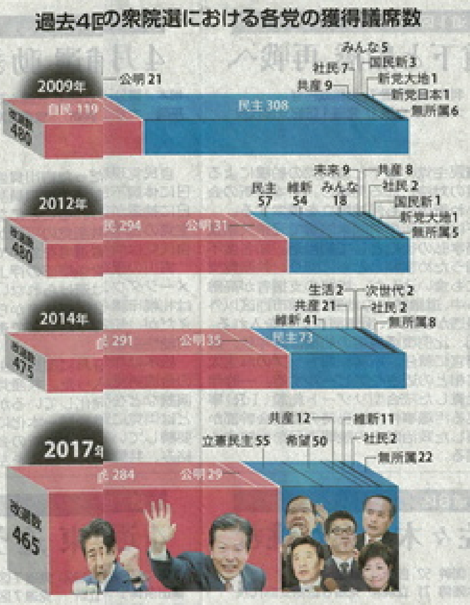
立憲は全289小選挙区のうち、200超で候補者を内定。合流に伴い党内で生じた10競合区のうち、新潟6区を残し一本化を実現した。31日に開く党大会を衆院選に向けた最初の決起集会に位置付け、選対幹部は「大会までに公認を210人まで増やす」と話す。

枝野氏は現有108議席をどれだけ積み増すか具体的な目標を避ける。各種世論調査で内閣支持率が下降する中、立憲の政党支持率は自民党に大きく水をあけられたまま。立憲内には「150人に達すれば迫力が増す」との声がある。

課題は共産党はもちろんのこと、社民党、旧国民から分派した新たな国民民主党を含む野党との共闘だ。国民とは互いに現職がいる小選挙区では対抗馬を出さないことで線引きした。

ただ、共産党とは道内5選挙区を含む60超の競合区がある。比例代表票の目減りに悩む共産は小選挙区擁立によるてこ入れにこだわり、一本化する条件として立憲に「野党連合政権」の合意を迫る。立憲内には共産と関係を強めれば支援を受ける連合の離反を招くとの懸念が強い。

全国政党化を掲げる日本維新の会も無視できない。与党と野党統一候補の構図に、与党と野党の中間的立ち位置の維新が参戦した場合、どう作用するか関係者は気をもむ。れいわ新選組も道内を含む全国で約100人の候補者擁立を目指しており、立憲の思い描く構図の実現は容易ではなさそうだ。（文基祐）



投票率低下を懸念

静岡4区補選は20ポイント減

次の衆院選が新型コロナウイルス禍の中で行われる可能性は否定できない。特例法で被災地の選挙を延期した阪神大震災や東日本大震災の直後のような事態は現時点で想定されていないが、投票率の低下などが懸念される。

昨年4月の衆院静岡4区補欠選挙は、緊急事態宣言が発令される中で実施された。昨年7月には東京都知事選も行われた。

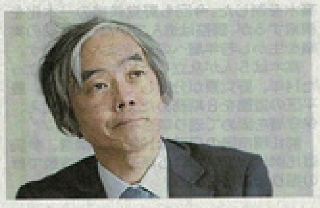
静岡4区補選では、投票所の入り口にアルコール消毒液を用意し、受け付けに飛沫防止のビニールシートを設け、記載台の間隔も空けた。期日前投票も、投票所の増設や時間の延長、移動式投票所となるバスの運行などで感染防止を心がけた。

ただ、与野党一騎打ちで激戦が繰り広げられたものの、投票率は17年衆院選を約20ポイント下回る34%と過去最低になり、県選挙管理委員会は「少なからずコロナの影響はあった」とみる。道内の最近の地方選挙でも、投票率の低下が目立つ。

新型コロナを機にインターネット投票の導入を求める意見も根強いが、一人一人に投票所に足を運んでもらうために、関係機関は感染防止対策の徹底などが求められそうだ。（田島工幸）

コロナ対応が最大の争点

東大先端科学技術研究センター
牧原出教授



次期衆院選で有権者が注目すべき点について、東大先端科学技術研究センターの牧原出教授（政治学）に聞いた。

◇

新型コロナウイルス感染拡大の収束を期待する政治と、予断を許さない現実とのせめぎ合いの中で行われる国政選挙となるでしょう。外交が停滞し、目立った進展が見込めない中、政権への評価は内政によって下され、コロナへの対応が最大の争点となることは間違いありません。

■経済と財政

感染の長期化で、観光業や飲食業を中心に経済への打撃は避けられません。その中でも政権が感染拡大防止に有効な策を打ち、「感染者数が減って良かった」と国民の合意や納得感を得られるか。そうしたコロナ下での経済運営が問われます。大規模な財政出動が続いており、コロナ後に予想される深刻な財政危機にどう対応するかも示されなくてはなりません。

菅義偉首相のリーダーシップの在り方も焦点になります。菅政権が発足当初、高い支持率だったのは、7年8カ月に及んだ安倍晋三政権への「飽き」が大きい。菅政権は安倍政権がつくり上げた官邸主導による政策形成の枠組みをうまく引き継げていないように見えます。観光支援事業「Go To トラベル」を巡る混乱や、日本学術会議会員の任命拒否問題など、意思決定への説明不足が目立ちます。

■政治とカネ

安倍前首相後援会の「桜を見る会」前日の夕食会費用を巡る疑惑や、参院選広島選挙区を巡る大規模買収事件、吉川貴盛元農水相の現金受領疑惑など安倍政権から相次ぐ「政治とカネ」の問題も厳しい目が注がれるでしょう。

選挙の構図としては、選挙協力が定着してきた自民、公明両党の与党に、野党側の立憲民主党と共産党が本格的な共闘で臨みます。野党がどれだけ与党の議席を奪えるか、与党が議席減をどれほど食い止めるか。2022年夏には参院選が控え、衆院選で与野党の議席が近づけば政権選択の形が見えてきます。安倍政権、菅政権の審判にとどまらず、中長期的な日本の路線を決める重要な選挙になります。（聞き手・[illegible]）

まきはら・いづる　1967年、愛知県生まれ。東大卒。東北大大学院教授などを経て2013年から現職。著書に「崩れる政治を立て直す」など。

近づく衆院選　波乱含み

次期衆院選は、衆院議員の任期が満了する10月21日までに行われる。菅政権にとって初の大型国政選挙となり、その是非に審判が下る。任期満了近くの選挙は近年、勝敗が大きく揺れ動いている。

種も

最少の119議席の歴史的惨敗を喫し、政権交代を許した。民主党の野田佳彦政権も現職閣僚8人が落選するなど大敗し、政権を失った。

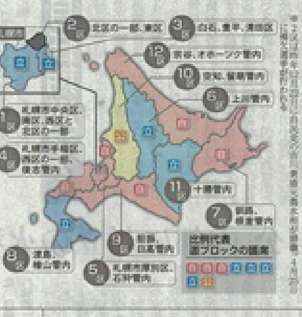
援する方向だが、県連は候補擁立を模索しており、両党の選挙協力の火種になる可能性がある。自民党内でも道7区や新潟2区、高知2区など10近くの選挙区で候補が競合している。二階俊博幹事長率いる二階派の勢力拡大方針がきっかけになっている例が目立つ。二階氏は首相と気脈を通じ、政権樹立の立役者でもあるだけに、官邸関係者は「首相は難しい判断を迫られる」と予言する。携帯電話料金の値下げなど個別政策をアピールする首相だが、任期満了間近の選挙を勝ち抜くには、世論の離反とともに与党内の対立を抑えられるかがカギを握る。（藤本卓郎）

衆院選　道内の情勢

衆院議員は10月21日に任期満了を迎える。菅義偉首相は新型コロナウイルスの感染状況や7月開幕の東京五輪、夏の東京都議選などをにらみつつ解散・総選挙の時期を探る。迫る次期衆院選に向けた道内の情勢と予想される顔ぶれを小選挙区と比例代表道ブロックごとに展望する。（敬称略）

名簿の見方

立候補予定を表明、あるいは検討する人を取り上げた。並び方は前回の勢力順。氏名、年齢、党派、現職・前職・元職・新人の別、当選回数、代表的肩書（元は前職を含む過去の肩書）の順で表記した。党派は自＝自民、立＝立憲民主、公＝公明、共＝共産。



道1区

道下と船橋　再戦へ

船橋　利実　60　自現②　財務政務官
道下　大樹　45　立現①　党道1区総支部代表

立憲民主党の道下と自民党の船橋による2度目の対決となる見通し。日本維新の会やれいわ新選組も候補擁立を模索する。

道下は2017年の前回衆院選で元衆院議長の横路孝弘の後継として初当選。知名度不足を補うため横路とともに回り、共産党支持層にも食い込んだ。横路の支援者が高齢化する中、道議時代の地盤、札幌市西区以外での浸透が課題で、街頭演説に力を入れる。

前回、比例復活当選の船橋は昨年秋、財務政務官に就任。所属派閥トップの麻生太郎財務相との近さをアピールする。一昨年末に発覚した統合型リゾート施設（IR）事業を巡る汚職事件で、当時の後援会幹部から受領した政治献金の説明不足を指摘する声が残る。

道2区

4月補選　動き活発

松木　謙公　61　立前④　元農水政務官
平岡　大介　31　共新　党東区常任委員

自民党現職だった吉川貴盛が昨年12月22日に体調不良を理由に議員辞職し、4月25日に補選が行われることになった。立憲民主党の松木と共産党の平岡が出馬予定で、自民党は候補者選考を急いでいる。

吉川の現金受領疑惑の浮上で自民党のイメージダウンは避けられない。地元関係者は札幌市議ら2区居住者から選出したい考えだが、知名度不足などで選考は難航する可能性もある。

松木は昨年9月に国民民主党から立憲との合流新党に入った。共産党の平岡も街頭演説などを活発化しているが、市民団体などは両党に野党候補一本化に向けた協議を要請している。日本維新の会などの動向も絡み、共闘の行方が勝負を左右しそうだ。

道3区

4度目　荒井対高木

高木　宏寿　60　自前②　党札連会長
荒井　聰　74　立現⑧　元国家戦略相
伊藤理智子　59　共新　元札幌市議

立憲民主党の現職荒井と、議席奪還を目指す自民党の高木による4度目の対決に、共産党の新人の伊藤が絡む構図。野党共闘の行方が勝敗の鍵を握りそうだ。

荒井は12年と14年の衆院選で比例復活しており、前回は野党共闘による一騎打ちで高木を制した。今回も野党候補の一本化を模索するが、調整は進んでいない。8期の実績を生かし若年層への支持拡大を目指す。

高木は5人が乱立した12年と4人が立った14年、野党票が分散して2連勝した。豊平区の道議を8期務めた父の地盤に加え、保守層を固めて返り咲きを目指す。

前札幌市議の伊藤は19年の道議選、参院選比例代表でいずれも落選。街頭演説で票の掘り起こしを図る。

道4区

核ごみ争点なるか

中村　裕之　59　自現③　党道4区支部長
本多　平直　56　立現③　党道4区総支部代表

4選を目指す自民党の中村に前回比例復活した立憲民主党の本多が挑む構図。後志管内寿都町と神恵内村では原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場選定に向けた文献調査が始まっており、この問題が争点となるかも注目される。

中村は昨年11月に政経セミナーを開くなど組織の引き締めを急ぐ。高規格道路整備などの実績をアピールし、核ごみ問題については旗幟（きし）を鮮明にしていない。

本多は同11月に合同選挙対策本部を発足。核ごみの文献調査に反対を訴え、前回1万4千票超の差がついた町村部に切り込む考え。前回は希望の党が候補を擁立して三つどもえとなったが、現時点で他陣営の動きはない。

道5区

野党一本化が焦点

和田　義明　49　自現②　党道5区支部長
池田　真紀　48　立現①　党道5区総支部代表
橋本　美香　50　共新　党道委員

自民党の和田と立憲民主党の池田による3度目の対決が軸となる。共産党も橋本を擁立。野党が候補を一本化するかも焦点だ。

和田は義父の故・町村信孝から引き継いだ地盤で2連勝中。昨年秋に新型コロナウイルス対策などを担う内閣府政務官に就き、昨年10月のパーティーでは「地元に帰れないが、大事な責務を果たす」と訴えた。

池田は前回、無党派層などへの浸透を図り、和田に約6千票差まで迫って比例復活を果たした。大票田の江別市や札幌市厚別区などのほか、千歳市や恵庭市への浸透も狙う。

橋本は16年の5区補選で野党候補一本化のため出馬を取りやめており、今回も野党共闘の行方に注目が集まる。

道6区

佐々木に東が挑む

東　国幹　52　自新　道議
佐々木隆博　71　立現④　党道6区総支部代表

5期目を目指す立憲民主党の佐々木に、自民党の道議の東が議席奪還を挑む。

東は、前回衆院選後に引退した元職今津寛の後継として昨年10月、公認候補となる党道6区支部長に就任。課題は地盤の旭川市以外への認知度向上で、6区管内23市町村のうち約半分で後援会を立ち上げ、浸透を急ぐ。街頭演説にも注力し「与党議員として地方の声を国に届ける」と訴える。

佐々木は「都市と地方の格差是正」などを強調し、党勢拡大を目指す。昨年10月には野党関係者と旭川市内で合同街頭演説会を開催。陣営関係者は前回同様に野党候補の一本化を期待する。佐々木は続投に意欲を示すが、後継に西川将人旭川市長を有力視する声もあり、動向が注視される。

道7区

4選伊東　追う野党

伊東　良孝　72　自現④　党道7区支部長
篠田奈保子　48　立新　党道7区総支部代表
石川　明美　69　共新　党釧根地区副委員長

自民党現職の伊東に立憲民主党の篠田と共産党の石川が挑む。自民党の鈴木貴子（34）＝比例代表道ブロック＝も7区での出馬に意欲を見せており動向が注目される。

伊東は小選挙区4連勝中。昨年9月、当選同期の小泉進次郎環境相を招いてセミナーを開催。地元道議の会合にも顔を出すなど地盤固めに余念がない。

弁護士の篠田は週2～3回の街頭演説を続けるほか、昨年10月に同党の枝野幸男代表の応援も受けた。石川は前回、野党統一候補として出馬し落選。野党共闘が実現すれば出馬にこだわらない考えだ。

鈴木は初当選以来、釧路と近郊で街頭演説を続けている。小選挙区での処遇は党本部が判断する見通し。

道8区

逢坂、前田一騎打ち

前田　一男　54　自前②　党道8区支部長
逢坂　誠二　61　立現④　党代表特命補佐

前回の衆院選と同様、立憲民主党の逢坂と自民党の前田が一騎打ちとなる見通し。

現職の逢坂は昨年秋誕生の合流新党で代表特命補佐のほか道連代表に就任。青森県で電源開発（東京）が進める大間原発建設の凍結などを訴える。知名度が高く、選挙中は他候補の応援要請も予想され、オンラインの会合を駆使し足場固めを急ぐ。共産党は前回同様、逢坂と共闘する方針。

前田は前回2万票以上の差をつけられ、比例復活も逃した。海上で患者を治療・搬送する「病院船」の函館港への誘致を主張の柱に据える。「道南の発展に政権与党の議席が必要」と訴え、函館市内で地元道議らと街頭演説を繰り返して無党派層への浸透を図る。

道9区

堀井と山岡　4戦目

堀井　学　48　自現③　元外務政務官
山岡　達丸　41　立現②　党道9区総支部代表
松橋　千春　38　共新　党道委員

自民党現職の堀井、立憲民主党現職の山岡による4度目の対決が軸となる。

3連勝中の堀井は室蘭や登別など西胆振の地盤が強固。「存在感が薄い」（党支部幹部）とされる苫小牧での支持拡大が課題だ。旧国民民主党から昨年、旧立憲との合流新党に移った山岡は、合流による組織拡大を追い風としたい考え。ただ、旧立憲の勢力の一部とはしこりも残る。

共産党の松橋には、山岡との共闘に向け、党内外で出馬取り下げ論があるが、具体的な動きはまだない。

連合傘下の全トヨタ労連が旧民主党系だけでなく、与党と連携を検討しており、苫小牧に立地する系列企業の組合の動きが戦いの構図に影響する可能性もある。

道10区

「自公連携」対野党

神谷　裕　52　立現①　党道10区総支部代表
稲津　久　62　公現④　元厚労副大臣

公明党として道内で唯一、小選挙区での議席を持つ稲津と、立憲民主党の神谷が出馬する見通し。

「自公連携の象徴区」とされる道10区で、公明は昨年7月に稲津を公認候補に決め、地盤固めを進める。前岩見沢市長の自民党の渡辺孝一は過去3回、稲津に出馬を譲り、比例代表道ブロックに回って単独1位の処遇で当選してきた。次の選挙での渡辺の処遇は未定。4回目の比例上位処遇は困難との見方が強く、支持者の間には不満も渦巻く。

神谷は過去2回敗れながら、前回は共産党との共闘で513票差まで追い上げ比例復活を果たした。地元入りして街頭演説を繰り返し、支持拡大を図る。

道11区

石川と中川が激突

中川　郁子　62　自前②　元農水政務官
石川　香織　36　立現①　党道11区総支部長

立憲民主党現職の石川と、自民党前職の中川による2度目の対決となりそうだ。

前回、約1万6千票差で敗れ比例復活できなかった中川は、財務相などを歴任した夫の故・昭一らが築いた地盤の再構築を急ぐ。保守層を固めるため、支持者を丹念に回る「どぶ板」の活動を展開中。前回推薦を受けた新党大地の支援にも期待する。

石川は夫で元職の知裕と二人三脚で再選を目指す。農業票を掘り起こすため、昨年11月には衆院予算委員会で菅義偉首相に農業政策をただすなど、関係者へのアピールに力を入れる。

前回、11区で初めて野党共闘を選択した共産党は、再び独自候補擁立を見送る公算が大きい。

道12区

野党候補選び難航

武部　新　50　自現③　衆院議運委委員

4期目を目指す自民党の武部に対し、野党は候補者選びが難航している。

武部は前回衆院選で有効票数のうち54.1%を獲得し圧倒的強さを見せた。現職の強みを生かし、週末は地元で支援者を回るなど活発に活動。今後は街頭演説や会員制交流サイト（SNS）での発信も強化する。

立憲民主党は地元と「落下傘」の両面で候補者探しを進めている。手堅い現職に対抗できる人材が見つからず、依然、具体名は挙がっていない。

共産党は「不戦敗はしない」と候補擁立を目指す姿勢を示しつつ、昨年11月には立憲などと野党候補の一本化に向けた協議に参加した。野党の候補者選定と共闘の行方が注視される。

比例道ブロック

「単独」処遇がカギ

渡辺　孝一　63　自現③　元防衛政務官
鈴木　貴子　34　自現③　党副幹事長
佐藤　英道　60　公現③　元農水政務官
畠山　和也　49　共前①　党中央委員

道内の全8議席のうち前回は自民党と立憲民主党が各3、希望の党と公明党がそれぞれ1だった。

自民党は、前岩見沢市長の渡辺と鈴木の処遇が焦点。前回まで3回連続で比例単独上位に処遇されてきた渡辺は、上位処遇でなくても受け入れる考え。鈴木は道7区からの出馬に意欲を示すが、現職党支部長がいるため道連内では鈴木を比例単独1位とする案が浮上している。

立憲民主党は比例単独上位を置かず選挙区との重複立候補を中心に4議席以上の獲得を目指す。公明党は佐藤の議席死守、共産党は畠山の議席復活が目標。日本維新の会、社民党、れいわ新選組は候補者を擁立する方針だが、具体名は挙がっていない。